

J.S.Bach Sinfonien

バッハ シンフォニア

第5番 変ホ長調 BWV791

- 楽曲分析と演奏法 -

著者：市花 真弓

目次

はじめに、インヴェンションとシンフォニアについて	3
1. バッハ「シンフォニア」第5番 Es dur BWV 791 楽譜	4
2. 動機と装飾記号の演奏について	6
3. バッハ「シンフォニア」第5番 Es dur BWV 791 第I展開部の楽曲分析と演奏法について	8
4. バッハ「シンフォニア」第5番 Es dur BWV 791 第II展開部の楽曲分析と演奏法について	10
5. バッハ「シンフォニア」第5番 Es dur BWV 791 第III展開部の楽曲分析と演奏法について	12
6. バッハ「シンフォニア」第5番 Es dur BWV 791 第IV展開部の楽曲分析と演奏法について	14
7. 楽譜にアナリーゼの内容を表記しました。 テンポ、強弱も記しました。	16

■はじめに

2003 年度からメールマガジンの配信システムを利用しました音楽講座としまして、「バッハ インヴェンションを弾いてみよう！- 楽曲分析と演奏法 -」の発行を始め、2012 年に PDF 書籍版に移行致しました。思いがけず、多くの皆様にご利用頂け、パソコンの前で頭が下がる思いであります。

2019 年 3 月～2020 年 5 月、バッハ インヴェンション全 15 曲の全面作り直しを致しましたが、シンフォニアも同様に全面作り直しをする事と致しました。作る度に新たな発見などあり、このように音楽に向き合っている今に感謝しております。(2020 年 6 月)

■インヴェンションとシンフォニアについて

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ (Johann Sebastian Bach 1685-1750) のクラヴィーア曲は、その大部分がケーテンの宮廷楽長時代 (1717~1723) に書かれました。インヴェンションとシンフォニア BWV 772-801 (*Inventionen und Sinfonien* BWV 772-801) も、「フランス組曲」「イギリス組曲」「平均律クラヴィーア曲集第 1 巻」などと共にケーテン時代に書かれた作品の一つとなります。クラヴィーア曲の多くは、教育目的として書かれました。バッハには、自身が「いずれも生まれながらの音楽家」と誇らしく語る息子たちがおり、とりわけ豊かな才能に恵まれていた長男ヴィルヘルム・フリーデマンの教材として「ヴィルヘルム・フリーデマン・バッハのためのクラヴィーア小曲集 (*Klavierbüchlein für Wilhelm Friedemann Bach*)」(1720 年頃) が編まれました。この曲集の中に「インヴェンション」の最初の形が見出される事となります。そこでは、2 声の曲が「プレアンプルム」(*Praeambulum*)、3 声の曲が「ファンタジア」(*Fantasia*) と題されていました。その後、バッハはさらに改訂し、1723 年に配列も変え、題名も 2 声曲を「インヴェンツィオ」、3 声曲を「シンフォニーア」と改めました。

自筆浄書譜には次のような表題があります。

「クラヴィーアの愛好家、とりわけ学習希望者が、まず 2 声部をきれいに弾き分けるだけでなく、さらに上達したならば、オブリガートの 3 声部を正しくそして上手に処理し、それと同時に、すぐれた楽想を得るだけでなく、それらを巧みに展開すること。そしてとりわけ、カンタービレの奏法を身につけ、それとともに作曲の予備知識を得るための、はっきりした方法を示す正しい手引き。」

シンフォニアもインヴェンション同様に、曲集に採用されています 15 調は、ハ長調 - ハ短調 - ニ長調 - ニ短調 - 変ホ長調 - ホ長調 - ホ短調 - ヘ長調 - ヘ短調 - ト長調 - ト短調 - イ長調 - イ短調 - 変ロ長調 - ロ短調 と 嬰ヘ短調、嬰ハ短調、変イ長調を除く 15 調が上行形に整えられています。(シャープ、フラット 4 つまでの調です。)

Johann Sebastian Bach

BWV 791

- 4 -

2. 動機と装飾記号の演奏について

インヴェンション、シンフォニアの中で珍しいスタイルを持つ曲です。下声のバス・オスティナートの上で、ソプラノとアルトが優雅なデュエットを奏でます。

動機について。

この曲の楽譜は、装飾記号が殆どないものと多様な装飾記号が記されているものの2種類があります。現在、演奏される場合は、後者の装飾記号を多く奏でるのが通常です。ただ、動機説明においては、装飾がない楽譜で説明させていただきます。

主動機 a

動機 b

4度

動機 c

バス・オスティナート (basso ostinato、固執低音)

a

b

b

a

a'

a'

まず、上声に主動機 a。主動機 a は、2 小節目で中声に置かれ、動機 b が対位しています。主動機 a と動機 b の違いは、音程です。主動機 a は、1 音と 2 音間は 4 度となっています。下声には、動機 c。これは、バス・オスティナート (basso ostinato、固執低音) となります。

※ オスティナート (ostinato) とは、ある種の音楽的なパターンを続けて何度も繰り返す事をさします。ostinato (伊) は obstinate (英) と語源を一にし、「がんこな、執拗な」という意味を持つことから、執拗音型、執拗反復などと呼ぶ事もあります。

現在、リリースされている楽譜は、Kb. (1720) と自筆清書譜 (1723) となるようですが、Kb. においては、上記楽譜のように 6 小節第 1 拍 C 音の前打音 G 音のみが装飾として記さ